

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101473		
法人名	のみやま 有限会社		
事業所名	グループホーム おさ		
所在地	〒811-1313 福岡県福岡市南区日佐3丁目40番30号 Tel 092-588-5611		
自己評価作成日	令和 元 年07月04日	評価結果確定日	令和元年09月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一緒にいる喜びを感じられる家庭」～地域、社会、スタッフ共に住む同志として～を理念に掲げ、「その人らしく」を大事にして生活支援、自立支援に努めている。年間行事の中では、多様な要望をできる限り叶えて差し上げられるように、行事担当者と密に相談、計画を行っています。外出支援、野外食、誕生会等月1回のペースで活気ある生活支援を心がけている。地域密着サービスとしての活動、地域役員、民生委員、住民、校区事業所と協力し「ほっとかれん隊」を通して危険個所の見回り、マップ作製、地域カフェ活動への協力、参加、地域行事への参加、協力し、地域の方々との交流を深めています。また、ご家族様との交流も大事にし野外食などで入居者様、ご家族様、弥永亭の利用者様、スタッフの家族との交流も行っています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和 元 年08月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム おさ」は、小・中学校、保育園、幼稚園、大学の周辺に位置し、2階建て定員18名の事業所である。地域カフェや各種行事へ地域と協力して相互参加して、地域と信頼関係を築き、地区の事業所連絡会「ほっとかれん隊」の活動や、オレンジリングの街作りにも貢献している。協力医療機関の受診や往診、看護師と介護職員の連携で、24時間安心の医療体制が整い、看取りの支援にも取り組んでいる。担当職員は利用者の嗜好を把握して、職員が交代で食材の買い出しから調理までを担い、美味しい食事を提供している。また、担当職員がレクリエーションを企画し、甘木温泉日帰り旅行は、利用者の大きな楽しみである。家族に目を向け、密に報告や連絡、相談を行う事を心掛け、職員と家族が、共に利用者を支えていく介護の実践に取り組み、利用者や家族の評価も高い「グループホーム おさ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族の2/3くらいと
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族の1/3くらいと
		<input type="radio"/>	4. ほとんど掴んでいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度ある			<input type="radio"/>	2. 数日に1回程度
		<input type="radio"/>	3. たまにある			<input type="radio"/>	3. たまに
		<input type="radio"/>	4. ほとんどない			<input type="radio"/>	4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. あまり増えていない
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が			<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2. 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3. 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4. ほとんどいない			<input type="radio"/>	4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一緒にいる喜びを感じられる家庭」(地域・社会・スタッフ共に住む同志として)を理念に、日々、周知・確認しながら、介護支援に努め、また又地域の方々との交流を通して理念の共有、実施に努めている。	ホーム独自の介護理念を見やすい場所に掲示し、職員は理念の意義を理解して日常介護に反映させている。パンフレットやホーム便り、運営推進会議議事録に理念を記載して、外部への周知を図り、地域密着型サービスの意義をふまえて、地域と相互協力出来る体制を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事・地域カフェ・近所への買い物等の参加・情報交換を行い、事業所全体で地域の一員として日常的に交流を図っている。	地域の行事や活動(夏祭りほほ笑みカフェ)に参加し、ホームの夏祭りやバーベキュー、餅つき等に、地域の方や家族を招き、利用者と一緒にひと時を過ごし、地域交流の輪を広げている。また、ボランティアや中学生の職場体験の受け入れ等、開かれたグループホームを目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の方々の介護相談、ホーム見学の受け入れ認知症サポーター講座開催の支援等で、地域の方々に認知症の方の理解、支援の方法を伝えていくように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議を年に6回開催している。ホームの状況や活動・支援等、取り組みの報告をし、参加者の方々の意見を求めてサービス向上に努めている。	他事業所と合同で2ヶ月毎運営推進会議を開催し、家族や民生委員、地域代表、地域包括、社協等多くの参加を得ている。会議ではホームの運営や活動内容の報告、身体拘束委員会からの報告を行い、外部講師による勉強会や避難訓練を実施する等、内容を工夫している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営会議の参加を求め、事業所の実情や支援内容、業務全般において、担当者に意見やアドバイスを頂いているが、問題等があった場合はその都度確認し、アドバイスを頂くなど、積極的に協力関係を築きながら取り組んでいくことができるように努めている。	ホームの空き状況や事故等の報告、介護の疑問点や困難事例の相談を行政担当窓口で行い連携を図っている。また、運営推進会議に、行政(年1回)や地域包括支援センター職員(毎回)の参加を得て、情報交換を行っている。「ほっとかれん隊」の取り組みに対してのアドバイスを受ける等、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、全職員が身体拘束をしないケアを周知し、カンファレンスやミーティングを通して身体拘束をしないケアへの取り組みを実施することができるように努めている。	身体拘束について年2回の職員研修が義務化された為、身体拘束廃止委員会を設置して、職員一人ひとりが身体拘束が利用者にとどのような影響を与えるかを学び、言葉や対応について検討して、身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への積極的な参加から内部研修への取り組みを図り、職員全員が理解を深める為に合同会議での知識向上・虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部・内部研修にて、職員全員が日常生活自立支援事業や成年後見制度への理解を深める為に、学ぶ機会を付けている。	権利擁護の制度に関する資料やパンフレットを用意して、契約時に利用者や家族に説明し、制度の活用に向けて支援している。また、外部の研修を受講し、制度について学ぶ機会を設け、伝達研修で職員に周知させている。過去に、成年後見制度を活用されている利用者がいたので、後見人とのやり取りを通して、制度への理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき、契約内容について詳しく説明を子になっているが、わからない事などがあつた場合は、その都度説明をさせて頂いている。変更等があつた場合は速やかに書面・対面での説明を行い理解・納得をして頂けるように努めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営会議や面会時にご家族様の意見・要望を頂き、家族会で報告し運営に反映させている。意見箱を設け、いつでも意見・要望を頂ける環境作りも実施している。	職員は、日々の関わりの中で、利用者の思いや意向を把握し、家族面会や運営推進会議、家族会等で話し合う機会を設けている。また、何かあつたらすぐに家族へ電話し、連絡を密に取るよう心掛けている。利用者や家族の意見や要望は出来る事から速やかに取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	合同会議やリーダー会議を行っている為、職員各自の意見を聞く場を設けている。個々の意見・要望等があれば、その都度時間を設け、反映するように努めている。	毎月行う職員会議ではカンファレンスを中心に話し合い、職員から意見や要望、提案が活発に出ている。また、目標達成シートを基に、管理者が年2回職員面談を実施し、個々の思いを聴く機会を設けている。2ヶ月毎に併設小規模多機能事業所と合同の全体会議を開催し、その中で外部研修の報告を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々のスキルアップの為に資格取得の体制をとっている。休み希望・有給希望を毎月聞きながら、働きやすい勤務作りに努めるようにしている。また、個々の自己評価を行い、向上心をもって働ける体制作りに努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢・資格に囚われずに、仕事に対する姿勢や人柄・思い等を優先し、個々の個性を發揮できるような職場作り、働くことにより社会参加の喜びを感じてもらえるよう、自己実現の権利が十分に保証されるように努めている。	職員の採用は、人柄や仕事に対する思い等を優先し、年齢や性別、資格等の制限はしていない。管理者は、職員の能力や特技を把握して、適材適所に人員配置して、働き易い職場である。職員採用後は、内部、外部の研修の受講や資格取得に挑戦する機会を設け、職員が向上心を持って働けるよう支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育、啓発活動の外部研修に積極的に参加し、内部研修に落としこみを図ることで、職員全員が人権問題や啓発活動に取り組んでいる。	人権についての外部研修を受講した職員が、内部研修で伝達し、他の職員への周知を図っている。利用者の人権を尊重する介護について職員間で話し合い、利用者一人ひとりの個性や生活習慣を尊重し、利用者が安心して暮らせるホームを目指している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時の新人研修から、外部研修・内部研修と職員全員が研修を受け、介護技術や知識の向上に努めることができるよう体制をとっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域運営推進会議等への参加や同業者の意見交換などの活動により、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面会や関係者(ご家族・CM・SW)との連携により、ご本人様が安心した生活を送ることができるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の相談・要望・不安などに耳を傾け、より良い関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様やご家族の要望や不安からご本人様のニーズを見極め、サービスや支援の対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「一緒にいる喜びを感じられる家庭」の理念のもとに、共に暮らす同志としての信頼関係を築いていくことができるように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、ご本人様とご家族様でゆっくりと過ごす時間を持って頂き、行事などへもご家族様等に参加して頂き、家族との絆を大切にしていけるような関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できうる限り、ご家族やご親戚、これまでに関わってこられた方々との交流を大切にしていって支援に努めている。	家族の協力を得て外出や外食、ドライブに出かけたり、地域のカフェや行事に参加する事で馴染みの関係が出来るように努めている。家族や親戚の面会が多く、同じ団地で一緒だった友人が定期的に訪ねて来られる等、利用者の馴染みの人や地域との交流を大切に支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で関わりがもてるような活動を取り入れ、個々の性格や他者との関係を把握し、共同生活を支え合えるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談等に対応し、関わりを持つように努め、継続的な支援が行えるように心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の希望や要望に耳を傾け、寄り添う支援、本人本位の支援が行えるように検討するように努めている。	担当職員は、日常会話の中から、利用者の思いや意向の把握に取り組み、実現出来るように支援している。意向表出が難しい利用者には、家族に相談したり、ベテラン職員が細やかな関わりで利用者に関わり、表情や仕草を観察しながら、利用者の思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の情報提供に加え、ご家族様等からの情報収集に努め、ご本人様からも今までの暮らしや生活環境を聞くことで、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせた生活能力を十分に理解し、心身状態に合わせて自立支援が行えるように現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様、連携している医療機関関係者、施設職員と共に、ご本人様の現状から、より良く暮らすための課題と自立支援に向けた介護計画を作成するように努めている。	面会や電話で、利用者や家族の意見や要望を聞き取り、職員間で検討し、3ヶ月毎のモニタリングを行い、6ヶ月毎の短期目標、1年毎の長期目標を立て、利用者本位の介護計画を作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、介護計画をその都度見直している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、日常生活の状態を個別に記録し、職員間での申し送りをし、月に1回の見直し・検討を行うことで、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に応じて、日々での生活はもとより、緊急時の医療機関への付き添いや外出時の支援などできうる限り、柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域からの催し物や行事に参加し、個人外出の支援により、個人個人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるような支援に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の要望を伺いながら、ご本人様の状況により、医療機関の受診に同行支援ができるような体制をとっている。	利用者や家族と話し合い、かかりつけ医の受診と往診の協力医療機関を選択して貰っている。協力医療機関による訪問診療と訪問看護師、介護職員の連携で、安心の医療体制が整い、健康管理は充実している。また、管理者を始め、看護師の資格を持つ職員が数名いることも心強い。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常での情報や気づきを、細かく主治医・看護師に報告し、個々の利用者様が適切な受診や看護を受けられるような支援体制を整えている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際は、速やかにアセスメントなどの情報提供を行い、医療機関とは密に情報交換・報告・相談に努め、ご本人様が安心できるような支援に向けての関係づくりを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入った場合に備え、ご本人様・ご家族様との話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明し、共有し、主治医・訪問介護の連携等にて看取りの支援の取り組みを行っている。	重要事項説明書を基に、重度化や終末期に向けた方針について、早い段階で、利用者や家族に説明を行い、希望を聴いて「医療に関する同意書」、「看取り介護についての同意書」を交わしている。主治医、訪問看護師、ホーム看護師、介護職員が協力して、看取りの支援にも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会の設置や緊急時に備え、職員全員での内部研修を行い、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けるように努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を、入居者様・地域の方々との協力で実施し、入居者様・地域の方々との協力を得て実施している。	年2回、昼夜想定避難訓練を実施し、1回は消防署の参加を得て、指導を受けている。避難訓練を運営推進会議の後に実施する事で、地区会長や民生委員の参加も得ている。また、非常食や飲料水、災害用備品をスーツケースに詰めて玄関に用意し、非常時に備えている。校区の防災訓練に参加し、地域と相互防災協力関係を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の誇りやプライバシーを守り、個々の人格を尊重し、言葉使いに配慮しながら対応している。	排泄や入浴時の介助では、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、同性介助希望を優先している。利用者一人ひとりの人格を尊重し、その方の自尊心を傷つけないような言葉遣いや対応を心掛けている。また、利用者の個人情報の取り扱いや、職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の希望を尊重し、常に自己決定できるように言葉掛けをするように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の毎日の生活が、笑顔で過ごせるように、不安に感じられないように、言葉掛けや支援を行うように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問美容室を利用し、ご本人様の希望に添えるカットやカラーを行い、外出時の服はご本人様に選んでもらっている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間は全員でゆっくりと過ごしていただき、職員も一緒に会話を楽しみながら過ごせるように努めている。 また、配膳などできる方には積極的に行って頂いている。	グループホームらしい手作りの食事を大切にし、ユニット毎に、利用者に食べたい物を聞きながら献立し、食材の買い出しをして、職員が交代で美味しい料理を提供している。外出レクリエーションの時に外食の機会を設ける等、気分転換を図りながら、食べることを楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の確認をし、バランスよく確保できるよう、気配り目配りし、個人に合わせた食事形態で提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎月、歯科衛生士・医師から口腔ケアや技師洗浄のじょげん・指導を受け、それに基づいて個々に合わせた口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様のペースで排泄支援を行っているが、排泄感覚の無い方は、常にトイレ誘導・声掛けし失禁等不快のないような支援を行うと共に、ご自分で行うことはできるだけ行って頂くなどの自立支援を行っている。	利用者が重度化しても、職員2人体制でトイレ誘導を行い、トイレに座ることによって感覚が戻る時があり、利用者の喜びに繋がると思い、職員は頑張っている。利用者の排泄パターンから、早めの声掛けや誘導を行い、失敗の少ないトイレでの排泄支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・ヨーグルト等乳製品の提供や体操や運動等を取り入れ、それでも排便がない時には主治医に相談し、服薬の処方も行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人様の体調等を観ながら、いつでも入浴できるようになっている。 なるべくご本人様の希望を聞き入れながら支援に努めているが、体調不良等でしばらく入れない時には陰洗や清拭などの清潔保持の支援をしている。	入浴は利用者の希望や体調に合わせて柔軟に対応し、毎日入浴が出来るように支援している。入浴は、利用者と職員が1対1で関わる事が出来る貴重な機会と捉え、会話したり歌ったりしながら、楽しく入浴できるよう努めている。また、入浴が困難な利用者には、時間をずらしたり、職員が交代で声掛けし、楽しい入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう、室内の温度調節や寝具・照明調節をし、ご本人様のペースで休息睡眠をとることができるよう支援を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルを活用し、個人の服薬がいつでも確認できる。また、薬の変更や追加時は申し送りを徹底して行い、職員間で周知に努めている。 月に2回、薬剤師の訪問時に相談・助言を受け、入居者様の変化に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人に合わせた役割などの手伝いに積極的に行っており、活動への参加を促し、おやつ提供や外出・散歩での気分転換を図ってもらえるような支援に努めている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での散歩や外出支援を一人一人の希望にそって行えるように努めている。また入居者様によっては、定期的にご家族が外出支援に協力してくださっている。 年間行事を通して、外出等を計画しご家族等と協力して外出支援に努めている。	年間行事として、甘木温泉日帰り旅行に出かけ、観劇、温泉、食事を楽しんでいる。家族の協力を得て外出、外食も利用者の楽しみである。また、天気の良い日を利用して、ホーム周辺の散歩や買い物に出かけ、月1回は外出レクリエーションを計画し、季節の花見や色々な所に出かけ、利用者の生きがいに繋がる外出支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本、ホームの方で行っている。 買い物等で必要時は、個人で所持して頂き使える支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望、ご家族様の要望があれば、いつでも対応できるような支援をしている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう、明るく安全な空間づくりに努めている。居室や共同空間は特に環境整備に努め動線の確保や、不快を感じさせないように工夫をしている。	建物内は、生花や季節毎の小物を随所に飾る事で、季節感や生活感を大切に暮らした暮らしを支援している。ホーム内の壁面は、利用者と職員と一緒に季節感のある作品を作り飾っている。また、清掃や消毒を徹底し、利用者が気持ちよく過ごせる清潔な共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ダイニングテーブルへの配慮。 気の合った仲間との会話やテレビ鑑賞ができるように心がけた工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や寝具を使用し、安心して居心地よく生活を送ることができるようにしている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者や家族に、「好きな様に使って下さい」と伝え、本人と家族の思いの籠った居室となっている。利用者の馴染みの家具や身の回りの物、大切にしてきた物等を持ち込んで、利用者が安心して過ごせるように支援している。また、清掃が行き届き、居心地良く過ごせる居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には、入居者様個人個人の名前。トイレ等には大きな文で認識・理解できるような表示をしている。 また、手すりなどで、安全な移動や自立した生活が送れることができるようにしている。		